

事業所名 グループホームのどか I・II
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成20年 3月31日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A:現職 医療機関経営管理者
資格・経験 特別養護老人ホーム生活相談員、臨床工学技士
B:現職 看護師
資格・経験 看護師(40年以上)、介護支援専門員

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評

全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

ホームは、津山市街地の北部に位置し、四季折々の彩りを感じる山々に囲まれている。日当たりの良い庭を眺めながらゆったりと過ごすことが出来る、静かで落ち着いた環境の中にある。

宅老所として平成8年から高齢者介護に先駆的に取り組み、入居者の生活を支えるにはどうすれば良いかを常に考えながら介護に取り組んでいる。現在は、訪問介護・デイサービス・ショートステイを併設して、入居者本位の介護を実践し、地域の要求に密着した支援を行っている。

代表者と管理者は、認知症高齢者のグループホームとして、「個々の生活を大切にしたい」という思いが施設と介護運営に力を入れている。

職員個々が認知症介護に対する情熱を持ち、自分自身の理念を持って介護できること、高齢者の安全を第一に考え、入居者の心が落ち着くように、入居者個々の気持ちの把握に努めてケアをすることを重視している。

身体的・精神的に拘束されることなく、自由にその人らしく生活できるように支援しており、そのことは職員と入居者の会話や入居者それぞれが自然にその人なりの自己主張や家事などの共同作業をしている事からもうかがえる。

医療機関との連携があり、毎月の受診により入居者の状態を良く把握している。緊急時には往診もあり、入居者の体調に異常や変化がある時には直ちに対応できる体制にある。医療機関との連携が確保されており、安心してホーム生活が送れる。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

特に無い。

宅老所として地域への貢献度は高い。終末ケア、看取りケアに関して介護指針を掲げ、医療との連携を持って行っている。今後、さらに深く研究・実践し、地域の高齢者の認知症介護の先駆けとして、更に地域貢献されることを期待する。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	<p>入居者の安全を最優先に考え、個々の生活感覚を大切にし、自然のままの生活リズムを支え、各職員が自分自身の介護の価値観を持ち、自律して支援することを重視している。</p> <p>人が自然に生きるための「援助と環境」作りを基本とし、入居者がその人らしく生活しようとする思いに応える介護を目指している。職員は、明るい表情で動じず、声掛けや手を触れてのコミュニケーションなど、個々の言動に丁寧に対応し、個人の尊厳を守っている。</p> <p>入居者の過去の生活歴・経験を踏まえ、残存機能に合わせた楽しみ・生きがいを持って支援している。喪失感に陥りやすい入居者に対しては、生きがいを感じてもらえるような接遇のあり方を重視している。</p> <p>入居者・家族で希望される方には、住み慣れたホームで人間として最期まで尊厳を保ちながら人生の終末を迎えられるよう、ターミナルケアの具体的な指針を設け、医療との適切な連携を図りながらのケアに取り組んでいる。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>入居者の安全を第一に考慮した環境を提供し、専門的に訓練されたプロとして介護に情熱を持ち続けられる職員の育成を重視して、職員採用後には、1人の入居者に丸一日寄り添い、その人の個性・状況等を肌身で理解できるように研修を行い、入居者の生活ペースに合わせた役割を演じられるように徹している。</p> <p>入居者の生活歴、性格、気質に合わせたニーズを把握し、個々に合った対応を行い、精神的に落ち着いて生活できる場の提供に努めている。</p> <p>心身共に安定してもらうため、入居者が考えていることを否定せず、入居者の気持ちを大切にケアに努めている。</p> <p>職員の業務スケジュールに追われる事無く、入居者のペースでゆっくり過ごす事が出来るように努めている。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にされた整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>過去の生活歴や楽しみなどとなっていたことに目を向け、個人を尊重しながら集団の中で役割がもてるように支援し、入居者が円滑な集団生活ができるように配慮している。調理の下ごしらえ、掃除・洗濯物たたみ等、誰もが経験したことがある日常生活での経験・習慣を大切に、それぞれが得意なことを自主的に行ってもらえるように支援している。</p> <p>入居者本人の「やりたいこと」を重要視して本人の自主性を引き出し、散歩や買い物、ドライブなどの外出で入居者の心身の活性化を図っている。</p> <p>入居者の個人情報の保護には十分に配慮し、事務室で保管して管理している。</p> <p>入居者の人格を尊重し、玄関や居室の入り口は施錠せず、自由な暮らしを支援している。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	<p>代表者及び管理者は、入居者本位の個別ケアを行うため、職員の力量をしっかりと把握した上でサービスを提供するように努めている。職員個々の感性と入居者の個性との相性にも気を配り、人と人との繋がりを大切に信頼関係の構築に努めている。</p> <p>代表者及び管理者は、採用後3ヶ月の初心者研修や、その後もスキルアップのため、年1回必要な研修を受講出来るよう人員体制を調整し、研修内容を全職員で共有するようにしている。</p> <p>入居者の安全を第一に考え、衛生管理・感染防止には特に留意している。</p> <p>現状に満足することなく、より良い介護サービスを目指している。管理者が中心になって苦情処理の窓口を入居者の家族に紹介し、事故報告書の記録を検討して問題発生防止に繋げ、積極的に改善していくという姿勢がある。</p>		